

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 八幡浜市立真穴中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ <b>III</b> ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年 1・2・3年（全校）・25名 ※ 小学校5・6年生11名（隣接する真穴小学校）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ オリパラ講演会およびパラスポ体験活動 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	◎ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築をめざす。 ○ 地元の車いすアスリートの講演から、障がいと向き合いながら目標に向けて努力する姿勢を学ぶ。 ○ パラスポーツを通して、障がいの有無にかかわらず共に楽しむことのできる活動を体験する。
5 取組内容	【車いすアスリート講演会】 日時：令和2年12月11日（金） 講師：井上 聡氏（ロンドンパラリンピック車いす陸上選手） 講演内容：「私と車いす陸上」 前半は井上さんご本人の障がいや車いす陸上、パラリンピアン等についての事前アンケートに対する回答形式でお話していただいた。後半はロンドンパラリンピック出場時の話を中心に、インクルーシブな社会の実現に向けて講話をしていただいた。終始、図や写真、映像を示しながら、やさしく親しみやすい口調でお話しをしていただいた。講演では、生徒たちから追加の質問にも丁寧に回答していただき、有意義な講演内容であった。



### 【パラスポーツ体験活動】

日時：令和2年12月11日（金）

講師：西田千景氏（楽スポ go やわたはまスポーツクラブ代表）

活動内容：ボッチャ・フライングアキュラシー

西田氏からそれぞれの競技の概要と基本的なルールの説明があり、チームに分かれて対戦形式で実践した。講演を終えた井上氏もチームに加わっていただき、一緒に活動することができた。



### 【生徒集会】

日時：令和2年12月15日（水）

活動内容：

#### 1 講演のふりかえり

井上氏の講演について、感じたことや考えたことなどを発表し、感想を共有した。

#### 2 車いす体験活動（協力：市社会福祉協議会、三泰商事）

体育館内に作られた仮設コース内を、車いすで走行した。全員が使用者役、介助役の体験を行った。

#### 3 話し合い活動

街で障がい者（肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい等）と遭遇した場面を設定し、どのような対応を心掛けるべきかを考え、意見交換を行った。



## 6 主な成果

### 【車いすアスリート講演会】

講師が県内出身のアスリートであることで、生徒たちは親近感を感じていた様子であった。講演前は「障がい者は社会的に弱者である」といったイメージが強い生徒が大勢いた。しかし、自らの境遇を受け入れ、前向きに工夫しながら生活し、競技に挑戦するアスリートの姿を目の当たりにし、イメージが変化した。また、自らの生活や取組を見直すきっかけをつかむことができた。

### 【パラスポーツ体験活動】

パラスポーツは「障がい者のスポーツ」ではなく、障がいの壁を越えて共に取り組み、楽しめるものであることを、体験を通して学ぶことができた。

### 【生徒集会】

#### 1 講演のふりかえり

講演後の感想を集会の中で発表し、共有し合うことで、自らの考えを深めたり、異なる視点に気付いたりする機会となった。

#### <生徒の声>

「諦めないことの大切さを学びました。」

「自分たちが気付いていない『バリア』が存在していることに気付くことができました。」

「できないと諦めるのではなく、今できることを工夫して挑戦を続けることの大切さを教えてもらいました。」

#### 2 車いす体験活動

2人に1台の車いすが用意されたことで、短時間に全員が介助する側、される側を体験することができた。実際に体験することで、車いすを使用している人は何に困り、どこを支援すればよいのかを実際に考えることができた。

#### 3 話し合い活動

車いすを使用されている方、聴覚障がい者、視覚障がい者との遭遇場面について、生徒会役員が調べ、場面設定やよりよい対応の仕方などについて話し合った。集会での意見交換では、生徒がお互いの意見に対して柔軟に修正案や代替案を提案する場面が見られた。

#### <生徒の声>

「小さな段差でも、思ったより大変だと思いました。」

「乗っている人は、押す人が思うよりも恐怖心があることが分かりました。」

「押している人に声を掛けてもらおうと、とても安心できました。」

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○関係機関との連携 車いすアスリートやパラスポーツ体験の講師の選定にあたって、パラスポーツコーディネーターの幸田裕司氏に相談し、連絡、調整等にもご協力いただいた。 車いす体験については、社会福祉協議会を通して車いすの借用や活動ボランティアの依頼を行った。</p> <p>○事前学習 講師について、事前に新聞記事を掲示し、紹介プリントを配付しておくことで、講演への関心を高めた。</p> <p>○予備調査 講師に対して事前に質問を届けておくことで、生徒が聞きたいこと、知りたいことを知らせることができた。</p> <p>○生徒集会の実施（事後活動） 生徒会役員に生徒集会を企画・運営させることで、自らの学びをふりかえり、互いに意見や感想を共有させることができた。 車いす体験の活動を取り入れたことで、講演だけでは感じられなかった障がい者の日常について感じさせることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○単発的な行事とならないよう、事前・事後の活動を含め、計画的に活動をすすめる。</p> <p>○生徒自身に体感させたり考えさせたりする時間を十分に確保する必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本校は学校統合により、今年度で閉校となる。統合先の学校でも、オリパラ教育の推進が図れるよう、本校の生徒が中心となって活躍してくれることを願っている。</p>